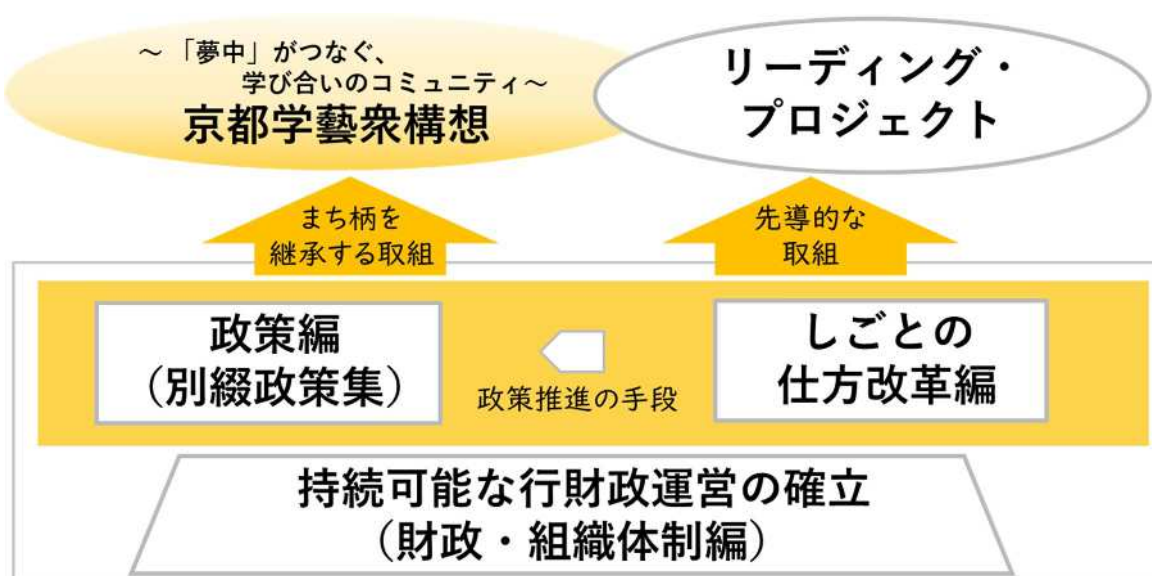


## 新京都戦略実施状況（報告）

新京都戦略では、令和9年度までに取り組む政策や、政策を推進するためのしごとの仕方改革、持続可能な行財政運営の確立を一体的に進めており、とりわけ、『すべての人に「居場所」と「出番」がある「突き抜ける世界都市 京都」』の実現に向けた先導的な取組を「リーディング・プロジェクト」に位置付けて強力に推進しています。

また、京都基本構想が示す京都の本質的な価値・魅力（まち柄）である「歴史と文化の積み重ね」「自然との共生」「人とのつながり」を未来に受け継いでいく象徴的な取組として、『京都学藝衆構想』を推進します。

（新京都戦略の構成）



新京都戦略の令和7年度の実施状況については、次のとおりです。

「政策編」については「2 令和7年度の概況・実施状況」を、「しごとの仕方改革編」及び「持続可能な行財政運営の確立（財政・組織体制編）」については「4 行政経営の大綱の実施状況」をもって報告とします。

以下、「リーディング・プロジェクト」の実施状況とともに、関連指標の状況について、報告します。

## 1 ひらく

### ① 世界中からクリエイティブ人材がつどい・交じる「テラス」のまちプロジェクト

- 都市の多様性・包摂性を高め、日本中・世界中から、アーティストやクリエイター、さらには職人、料理人など京都の価値に共感する多彩なクリエイティブ人材を呼び込む。公民の住宅ストック等を活用して、京都で暮らし、創造的に活躍できる環境を整え、作品の制作・発表ができる機会を創出。
- クリエイティブ人材を自律的・持続的に受け入れるための仕組みを構築（ネットワークの形成等）するとともに、京都の多彩な学藝を取り巻く人のつながりを活かした交流を促進し、新たな文化や産業の創出、地域課題の解決等につなげる。
- 国際卓越研究大学の認定候補となった京都大学をはじめ、多様な大学や研究機関が集積する「世界に開かれた“大学のまち京都”」の特性を活かし、サバティカル休暇を取得する海外の研究者や留学生等やその家族が、京都に来て、地域に調和しながら安心して快適に暮らし、活躍できる環境を整えるため、公民の住宅ストック等を活用した住まいの支援、相談窓口の設置、日本語や日本文化を学べる拠点の充実。
- 市営住宅について、セーフティネットとしての機能を維持しつつ、空き住戸を積極的に有効活用。大学等との連携により、クリエイティブ人材や学生の居住、一定期間滞在できる環境を整えるとともに、活動の場としても提供。
- インターナショナルスクールの開設等の支援など受入環境を整備。多文化共生社会において、多様な文化的背景を持つ人々との相互理解・相互尊重を促進。分野を横断する国際政策を戦略的に推進するための体制を構築。

#### 令和7年度（2025年度）の主な取組

- ・ 京都芸術センターによるアーティスト・イン・レジデンス事業により、海外アーティストを受け入れるとともに、国内アーティストを海外（ノルウェー、ドイツ、インドネシア）に派遣
- ・ 京都の若者が世界の多彩な才能と交流する仕組みづくりを目指す「\*\*\* in Residence Kyoto」の取組として、新たに6箇所のレジデンス施設の立上げを支援。ファッションデザイナーやエンジニアなど海外から7名のクリエイターを受け入れるとともに、若者・地域との交流を促進するため、ユースコーディネーターによる滞在中の海外クリエイターへのサポートや多様な交流を生み出す企画・運営を実施

また、「ニューイ・ブランシュ KYOTO」と連携し、フランスから5組6名のアーティストを招聘し、約1箇月間市内に滞在。制作活動を行うとともに、作品の展覧会、ワークショップ等により地域との交流等を実施

- ・ 外国籍市民の生活実態やニーズ、日本の受入れに関する意識等を把握することで、京都市に住む日本人と外国籍市民との相互理解を深め、誰もがより安心して暮らせるまちづくりに向けた施策を検討するため、外国籍市民意識・実態及び受入れに関する調査を実施
- ・ 国内外の多様な主体との交ざり合いや新たな価値創出を全庁的に推進するため、グローバルな視点を取り入れた施策の統括部署を設置

## ② 公共空間をまちに開くパブリック「テラス」プロジェクト

- 公園や学校、ホール、市役所前広場をはじめとする公共空間や、人々を癒し、コミュニティの中核をなす銭湯などの民間施設において、市民、地域、NPO、企業、大学などの多様な主体の活用が促進されるよう地域コミュニティ Hub 等の取組を通じて開かれたテラスのように気軽につどい・つながり・交ざり合い・学び合う魅力的な場や機会を創出。

市民、地域、民間事業者等との双方向のコミュニケーションの下、行政のしごとを市民等にひらき、多様な主体が自分事として、満足度を持って公共にかかわることができるまちへ。

- 図書館についても交流機能を高めるなど多機能化するとともに、カフェなど居心地のよい第三の居場所（サードプレイス）づくり、さらには、新たなつながりや活躍の機会を創出し、価値や気づきに出会える場所（フォースプレイス）に。

### 令和7年度（2025年度）の主な取組

- ・ 「市民に開かれた市庁舎」に向けて、閉庁している休日にも京都市役所本庁舎の屋上庭園や庁舎内のオープンスペース、地下連絡通路などを開放。本庁舎地下2階の一部区画にキッズスペースを試行設置
- ・ 区民に親しみと愛着のある「SANSA 右京」を目指して、1階まちづくり交流拠点「MACHIKO」をはじめ、ロビーや屋外テラス等の空間を活用して交流を生み出す「SANSA 交共プロジェクト」を実施。イベント等の小さな実験を重ねるとともに、民間事業者と連携し、令和8年3月に施設内のあらゆる空間を活用した「SANSA OPEN WEEK」を開催
- ・ 伏見区役所庁舎1階ロビーにおいて、人工芝や書籍、ちゃぶ台等を配置し、靴を脱いでリラックスできる「芝生サロンスペース」を開設。多様な主体が集い、つながる場の創出に向けて、ワークショップ等の交流事業を実施
- ・ 図書館のサードプレイス化を目指し、左京図書館・中央図書館・右京図書館において、キッチンカーやオリジナル家具等を設え、居心地の良い仮設空間の創出により、新しい図書館体験をできる「POP-UP LIBRARY」を試行実施し、普段図書館を利用していない市民が図書館を訪れるきっかけを創出

### ③ 市民生活と「観光」の両立プロジェクト

- 観光課題対策はもとより、全国初のパイロットプロジェクトとなる市バス等の「市民優先価格」を実現。二条城等の公共施設の「市民優先価格」など更なる市民サービス向上を検討。観光の意義や市民生活にもたらす効果を市民がより実感できる環境づくりを推進するなど、宿泊税も効果的に活用し、市民生活と「観光」の調和・両立を実現。
- 民泊の顕著な増加に伴う地域コミュニティへの影響、また民泊に起因した騒音等による静謐な生活環境の悪化等の課題に対応するため、廃止命令も視野に違法民泊に厳格に対処するとともに、民泊の適正化に向けた監視・指導体制を強化。さらには、国とも連携し、都市計画手法も含めた立地規制など民泊規制のあり方を検討し、条例改正等により抜本的に規制を見直し・強化。
- 観光客が暮らすように旅をつむぎ、長い歴史の中で育まれてきた多様で奥深い本物（ほんまもん）の魅力に触れ、堪能することで、何度も訪れたくなる、長く滞在したくなる、さらには住みたくなるような京都観光を推進。京都ファンの観光客に京都の魅力を調査することで、観光施策をさらに磨き上げる。
- 二条城をはじめとしたユニークベニユーの活用など京都の強みを活かしたMICE誘致を強化。多彩な分野で世界の最先端を走る人々が京都につどう機会を活かし、市民や学生、研究者、企業等との交ざり合いや学びの場を生み出し、新たな価値の創造につなげる。

#### 令和7年度（2025年度）の主な取組

- ・ 市バスの市民優先価格の実現に向け、国や民間バス事業者との協議、市民と市民以外を識別するシステム導入の検討を進めるとともに、実施時期や運賃案など令和8年3月時点での制度概要を公表
- ・ 手ぶら観光の更なる推進のため、京都駅構内のコインロッカーの位置・満空情報や手荷物の配送・一時預かりサービス窓口をはじめ、バス乗り場や店舗情報等をオールインワンで発信するデジタルプラットフォーム「京都駅デジタルマップ（駅スマ）」を導入
- ・ 住宅宿泊事業法に基づく定期報告義務を怠る事業者に対し、違反对応を強化するとともに、民泊の抜本的な規制の見直し・強化に向け、旅館業法及び住宅宿泊事業法について、地域の実情を踏まえた柔軟な運用が可能となるよう、法改正も含めた制度見直しを厚生労働省や観光庁へ要望するとともに、令和8年度中の条例改正提案に向けた検討を開始
- ・ 府市連携における周遊観光の推進（「まるっと京都」）の一環として、府内全域の川が持つ多様な魅力を発信する「川の京都」をテーマにした観光コンテンツの造成・販売
- ・ 「京都らしい MICE 開催支援補助制度」について、「ユニークベニユー活用」に係る経費補助を新設し、ワークショップ、シンポジウム、レセプション等を実施するにあたって、寺院・神社等の文化財をはじめとするユニークベニユーを活用した MICE 開催を計22件支援

#### ④ 地域の魅力向上プロジェクト

- 次期都市計画マスタープランに基づき、「景観」、「住環境」、「都市機能」のバランスを考慮し、守るべき点と交通結節点等の伸びしろによるメリハリを意識したまちづくりを誘導。
- 京都の景観の現況について多角的に検証を行い、京都にふさわしい通り景観の創出など、地域の特性に応じたきめ細やかな景観形成のあり方を検討し、景観政策をさらに進化。
- 京都駅前を、国際競争力を持つビジネス・交流の創造拠点へ。オフィスや商業施設などの都市機能の集積を図るとともに、利便性の高い交通結節、人中心のウォーカブルな環境など、京都の玄関口にふさわしいエリアへと再生するための取組を公民連携で推進。
- 洛西“SAIKO”プロジェクトやmeet us山科 - 醍醐といった地域活性化プロジェクトを引き続き強力に推進するとともに、西京極総合運動公園や北山エリアなどのスポーツや文化の拠点機能、また、北部山間地域などの自然、歴史、文化といった地域資源など、それぞれの地域が紡いできた個性、まち柄を活かしたまちづくりを推進し、新たな魅力や賑わいを創出。

#### 令和7年度（2025年度）の主な取組

- ・ 市内各エリアのまちの特性「まち柄」を踏まえた将来像を示す次期都市計画マスタープラン策定に向けて、都市計画審議会都市計画マスタープラン部会において検討
- ・ 社会経済情勢、市民ニーズの変化に対応した景観政策とし、地域特性を活かした景観づくりに取り組むため、景観調査を実施するとともに、京都市景観政策検討委員会を設置し、政策の方向性等について検討・審議
- ・ 京都の特性を活かした、京都駅前にふさわしい商業・業務の更なる集積、ウォーカブルな賑わい、街並みの創出等に向けて検討するため、「京都駅前の再生に係る有識者会議」を設置。京都駅前が果たすべき役割・将来像やその実現に必要な取組等について議論し、「京都駅前の再生に係る意見まとめ」を策定
- ・ 八丁平、花脊など、豊かな自然と共に育まれた歴史・文化が息づく北部山間地域において、「山村都市交流の森」周辺のトレッキングルート等を整備するとともに、国内外から森林や自然環境に魅力を感じる方々をターゲットにした特別感のある体験プログラムやガイドツアーを開発

**⑤ 京都ならではの交通ネットワーク形成プロジェクト**

- 市民生活を支え、まちの持続可能性を高めるための公共交通ネットワーク、市内移動の利便性の維持・向上、さらには京都のまちの発展・魅力向上にもつなげるため、新技術の活用や新たな交通システムを含め京都の交通のあり方について検討。
- 担い手不足の解消など交通課題の解決だけでなく、市民の利便性向上や地域活性化にもつながる自動運転バスの導入に向けた実証実験の実施に加え、既存公共交通の維持が困難な地域において、デマンド交通など地域の実情に合わせた交通システムを幅広く検討。
- 安心・安全・快適な自転車利用環境の充実や、公共交通を補完し、移動の利便性向上につながるシェアサイクルを推進するなど、自転車交通の役割を拡大。

令和7年度（2025年度）の主な取組

- ・ 令和10年度の市バスの自動運転レベル4実装に向けて、自動運転に適した道路環境等に加え、”洛西 SAIKO プロジェクト”との連動による地域活性化への貢献も目指し、洛西地域における自動運転バスの実証実験（市民乗車体験）を実施
- ・ 京北地域に適した移動サービスの検討に向けた調査・検証、一部地域でのデマンド交通の乗車体験を実施
- ・ 自転車走行環境の整備（整備延長 2.2km）やシェアサイクルポートの設置促進（市内全ポート数：2,086箇所）により、「自転車共生都市・京都」を推進

## 2 きわめる

### ⑥ 「世界に唯一」を目指し、知や技術を創発する企業立地促進プロジェクト

- 国内外の突き抜けた企業の立地や多彩な人材の集積により、経済や産業基盤を強化。国内外の関係機関等と連携し、世界との交流・協働を促進することで、誰もがあこがれる世界に唯一のビジネス都市・京都を実現。
- 国、府等との連携による広域でのAI時代に向けた半導体産業をはじめとするものづくり産業やメディア芸術などの産業育成・企業立地を促進。
- オフィスや民間ラボの開発促進、共創の場づくりなど、外部からアイデアを取り入れ、京都企業が発展するためのオープンイノベーション環境を創出。社会価値の創造に向けたイノベーションの創発を加速化。
- 本社や研究開発機能等の立地促進、世界の知や技術の集積により、京都駅周辺を次代のビジネス・交流の創造拠点へ。

#### 令和7年度（2025年度）の主な取組

- ・ 国内企業については、他都市への進出意向のある企業等を調査し、誘致活動を実施するとともに、イベント等を活用したネットワーキングや情報発信、企業立地促進制度の活用等により、企業立地を促進
- ・ 海外企業については、日本への進出意向が強い海外企業を調査し、誘致活動を実施するとともに、日本への進出を支援する海外VCやアクセラレータ、在日大使館や在日外国商工会議所をはじめとした日本への進出窓口機関等との交流会等を通じてネットワークを構築
- ・ 京都駅南オフィス・ラボ誘導プロジェクト「京都サウスベクトル」のエリア内において、市内企業による本社の建て替えや研究開発拠点の新設などによる事業拡大（株式会社ナベル、任天堂株式会社、都タクシー株式会社）
- ・ 物流システムで高いシェアを持つ株式会社ダイフクが京都に研究開発拠点を新設するほか、台湾の半導体大手「PANJIT International Inc.」の日本法人であるパンジットジャパン株式会社が京都へ進出
- ・ 府市協調による半導体産業振興の一環として、日本最大級の半導体産業展示会「SEMICON Japan 2025」において京都パビリオンを設置し、京都企業の販路開拓やビジネスマッチングを推進

## ⑦ 世界と社会にインパクトを与えるスタートアップ創出・成長プロジェクト

- 京都の強みである大学の研究知や、高いものづくり技術を活かし、積極的な海外展開等の支援により、社会課題の解決など長期目線で社会にインパクトを与えるグローバル企業を京都から創出。
- ライフサイエンス等の成長が期待される分野において、国際卓越研究大学の認定候補となった京都大学をはじめ、多様な大学とも連携し、世界にインパクトを与える研究技術（ディープテック）の事業化支援、高度な人材の発掘・育成、海外スタートアップ・エコシステム等との連携強化、海外展開支援等による成長促進を通じ、世界を変えるスタートアップを創出。
- 第2期拠点都市の選定を受けて、京都におけるスタートアップ創出の加速化に向けた、スタートアップの支援強化のため、アントレプレナーシップ（起業家精神）の醸成、経営人材の育成・誘致、IVS等のカンファレンス開催や交流イベント等を通じたネットワークの構築など、京都スタートアップ・エコシステムの充実。
- 社会課題の構造分析を踏まえた官民共同によるプロジェクトの実施、国際的な交流の場や教育プログラムの提供により、ローカルゼブラ企業の成長を促進。
- AI・ロボティクス・セキュリティ等の導入や計測・分析機器の活用を支援するプラットフォームの構築・活用により、地域企業・スタートアップ企業の成長を促進。

### 令和7年度（2025年度）の主な取組

- ・ フランス、シンガポール及びフィンランドで開催された海外展示会に出展等を行い、現地企業等との商談機会の創出、京都スタートアップ・エコシステムのPRを実施。また、既に海外展開に取り組んでいるスタートアップに対し、海外販路開拓や資金調達に向けた市場調査や商談先の開拓、現地企業・投資家等とのマッチング、現地渡航時の商談支援などの個別伴走支援を実施
- ・ 起業家候補人材を発掘・育成し、大学研究者とのマッチングや研究シーズの事業化に繋がる事業計画策定を目的としたディープテック起業家育成プログラムやディープテック創業セミナーを実施
- ・ ライフサイエンス分野に関わる大学研究者やスタートアップ、企業、支援機関等が交ざりあい、大学等における革新的な技術シーズを社会へとつなぐことを目指し、京都市ライフイノベーション創出コミュニティ「KLIS-X」を創設
- ・ 国内最大規模のスタートアップカンファレンス「IVS」が3年連続京都で開催、500件を超えるサイドイベントを含め、国内外の起業家や投資家等の交流を促進
- ・ 国内最大級のソーシャルカンファレンス「BEYOND2025」を開催し、社会起業家ピッチ、社会起業家VC壁打ちセッション、社会起業家・非営利団体によるブース出展のほか、新たに全国でプレイベントやサイドイベントを実施

**⑧ 「千年の都から次の千年へ」文化継承・価値創造プロジェクト**

- 伝統産業を次世代に継承・発展させていくため、クリエイティブ人材との交流等を通じた、アートやファッションをはじめとする他分野との融合・連携により、伝統産業の新たな価値の創造につながる、国内外の販路の開拓・拡大、担い手の育成等を行う先進的な取組を支援。
- 京都の人々の生活、歴史と文化の理解に欠くことのできない文化遺産を守り、活かし、未来へつなぐため、文化財の適切な維持管理に向けた支援策の充実、価値発信等を通じた担い手・支え手の裾野拡大、地域に眠る文化遺産の保全に向けた機運醸成、国・府とも連携した京都ならではの歴史博物館機能の検討。
- 京都の多彩な学藝を取り巻く人のつながりや、生活の中に伝統と文化が息づくまちの強みを活かし、感性豊かな子どもの頃から、能・狂言などの伝統芸能、映画文化、食文化、豊かな自然、ものづくりなど京都ならではの多様な体験を得ることができる環境を整備。京都の学藝を支え、継承・創造していく次世代の「担い手・支え手」の資質を育成。
- 多くの市民に支えられ、育てていただいた京都市交響楽団について、北山エリアを拠点にワールドクラスのオーケストラへ発展。京都のクラシック音楽の殿堂「京都コンサートホール」の大規模改修を機に、より地域・市民に開かれたオーケストラとして、音楽を通じた多様な人の交流、将来の担い手育成等を通じて、北山エリアの文化・交流拠点化につなげ、京都を音楽の都に。
- 文化と経済の好循環創出を目指し、カルチャープレナー（文化起業家）との連携による更なる価値創造、国内外からの投融資の更なる呼び込み。

**令和7年度（2025年度）の主な取組**

- ・ 伝統産業未来構築事業として、販路開拓・拡大、新商品開発を含む商品力の向上、確保が困難な道具・部品対策、海外展開に繋がる事業への支援を行うとともに、新たに商品開発等に知見のある事業者と協業で新商品を開発・販売することで、伝統産業事業者がスキルを身に付け、販路開拓・拡大につなげる新商品開発等支援プロジェクトを実施
- ・ 広く京都市の文化財保護行政を取り巻く現状や課題等を整理し、「文化財を学ぶ、繋げる、守る」をコンセプトとした展示・教育機能、ハブ機能、収蔵機能の整備など、京都市に求められる京都ならではの歴史博物館の機能を検討するうえでの基礎調査の結果を取りまとめ
- ・ 「日本映画発祥の地・京都」の映画文化の更なる振興や持続可能な担い手育成の寄与を目的に、京都映画月間において、府市協調で京都ヒストリカ国際映画祭と連携し、京都映画賞の表彰式や上映会を開催したほか、東映京都撮影所見学ツアー等を実施。また、「映画のまち」太秦を舞台に、映像制作・アクション演出・小道具体験など、日本映画の奥深さを味わえる市民向けの連続講座「太秦で学ぶ映画と殺陣の世界」を開催

- ・ 豊かな体験の機会を得て感性を育むことが重要である幼少期から、京都ならではの伝統芸能に触れる機会を創出するため、幼稚園等で子どもたちに伝統芸能（能・日本舞踊）を体験いただく「はじめまして和の体験」のモデル事業を実施
- ・ 京都コンサートホールの魅力向上に向けた大規模改修に係る基本設計を実施するとともに、京都コンサートホールでの京都市交響楽団リハーサル的一般公開を実施

## ⑨ まち中に「学藝」があふれるプロジェクト

- 学問、学びだけでなく、芸術・技芸があふれる唯一のまちを目指し、歴史、文化、大学の知が集積する京都のまちの強みを活かし、京都ならではの市立・府立高校の連携、高大連携等により、探究型学習、STEAM 教育、英語教育、演劇教育を実践、アントレプレナーシップ（起業家精神）を醸成。京都のまちを舞台に、次代を担う子どもたちの「生きる力」と「創造的な発想力」を養い、グローバルに活躍できる人材を育成。さらには、突き抜けた人材が学校教育で幅広く活躍できる場を創出するとともに、京都のまちづくりにも寄与する市立高校の魅力を向上。
- 京都の多彩な学藝を取り巻く人のつながりや、生活の中に伝統と文化が息づくまちの強みを活かし、感性豊かな子どもの頃から、能・狂言などの伝統芸能、映画文化、食文化、豊かな自然、ものづくりなど京都ならではの多様な体験を得ることができる環境を整備。京都の学藝を支え、継承・創造していく次世代の「担い手・支え手」の資質を育成（再掲）。
- 大学・学生が京都のまち全体をキャンパスに学びを深め、その力を地域活性化や社会課題解決に。学生の出会いと交流を通じた京都への愛着の醸成、府と連携した奨学金返済支援の充実等により、市内就職・定住の促進、京都との関係の構築により、将来的な京都への定着を促進。

### 令和 7 年度（2025 年度）の主な取組

- ・ 京の高校生探究パートナーシップ事業として、府市連携で、西芳寺・苔寺、清水寺等の京都の歴史的建造物等を舞台に、「自分の生き方」と向き合う探究学習プログラム「京都探究クエスト」を開催。また、府・市立高校の合同探究成果の発表の場となる「京都探究エキスポ 2025」について、新たに中学生、インターナショナルスクール、起業家等から発表を行うなど充実して開催
- ・ 京都ならではの STEAM 教育の充実に向け、京都市青少年科学センターがその拠点として相応しい科学館に飛躍するための調査研究を実施。有識者等で構成する「京都ならではの STEAM 教育充実に向けた調査研究検討会議」で検討を進めるとともに、市民向けのワークショップを開催

- ・ 「日本映画発祥の地・京都」の映画文化の更なる振興や持続可能な担い手育成の寄与を目的に、京都映画月間において、府市協調で京都ヒストリカ国際映画祭と連携し、京都映画賞の表彰式や上映会を開催したほか、東映京都撮影所見学ツアー等を実施。また、「映画のまち」太秦を舞台に、映像制作・アクション演出・小道具体験など、日本映画の奥深さを味わえる市民向けの連続講座「太秦で学ぶ映画と殺陣の世界」を開催【再掲】
- ・ 豊かな体験の機会を得て感性を育むことが重要である幼少期から、京都ならではの伝統芸能に触れる機会を創出するため、幼稚園等で子どもたちに伝統芸能（能・日本舞踊）を体験いただく「はじめまして和の体験」のモデル事業を実施【再掲】
- ・ 府市連携により、学生が地域や企業と連携して課題解決に取り組む活動への支援や、地域や企業と交流する機会の提供を通じて、京都の地域・企業への理解や愛着を育み、将来の京都を支える人材の育成を目指す「学生×地域×企業 京都未来人材育成プロジェクト」を実施

#### ⑩ 市役所・区役所の「つなぐ」機能強化プロジェクト

- 地域・企業・大学・福祉関係団体・NPO、京都のまちに関わりを持つ広い意味での市民など、地域における多様な主体のゆるやかなつながり、結びつき、交ざり合い、学び合いを促進するため、組織間の垣根を越えて人と人とをつなぐ「結節点」として、区地域コミュニティ Hub（区 Hub）を設置した区役所・支所の更なる機能強化。

さらに、「結節点」の核となる人材を育成し、地域の内外の人材の交ざり合いにより、「居場所」と「出番」を創出し、持続可能で多様なコミュニティの形成を支援。

- 多くの学生が学び、観光客が訪れるなど京都のまちの特性に留意しながら、地域の様々なニーズを「結節点」となる区 Hub が積極的に把握し、それを基に区 Hub と市地域コミュニティ Hub（市 Hub）が組織の垣根を低くし共に政策を磨き上げ、幅広く展開することで、市民が政策の効果を実感することができる取組を実践。

- ひらかれたまち柄の下、ゆるやかなつながりにより「居場所」と「出番」をつくるため、加齢性難聴の方への支援など、高齢者の社会参加のきっかけづくりを応援するとともに、人と人との交流の場となる銭湯における子どもたちから年配の方まで世代を超えた交流を促す取組や経営基盤の強化を支援。

#### 令和7年度（2025年度）の主な取組

- ・ 地域と地域の多様な主体及び行政機関の結節点となる「区・支所地域コミュニティ Hub」を全区・支所に設置するとともに、広域又は分野横断的な地域課題等の解決に向けて、「区・支所地域コミュニティ Hub」と協働して取組を推進するため、「京都市地域コミュニティ Hub」を設置
- ・ 地元 NPO 法人と連携した「洛西納涼祭 Bamboo Bon Dance」や「京都西山竹あかり事業」における地域住民や市民ボランティア等との竹あかり制作や、「POP UP!西京」におけるカフェやワークショップ等の企画など、区 Hub のコーディネートにより、多様な主体がつどい・つながり・交ざり合う場づくりを実施
- ・ 住民の健康増進や地域交流等に関し重要な役割を担っている銭湯の利用促進に向けたスタンプラリー企画「京都銭湯 二十四節気 湯めぐり」を実施、銭湯のボイラー改修等に対する支援を充実

### ⑪ 地域の「絆」で支え合う子育て応援プロジェクト

- もっと子育てがしやすくなり、若者・子育て世代から選ばれるまちとなるよう、第2子以降の保育料無償化の実施、府市協調による子ども医療費支給制度の充実など子育て世帯の経済的負担の更なる軽減。

住宅取得・改修の支援など、若年・子育て世帯の定住・移住を促進。

- 公園の魅力向上やスポーツ施設など地域の施設の活用、地域団体の連携、京都の多彩な学藝を取り巻く人のつながりを活かした夢中になれる学びの場の創出等により、子ども・若者の「居場所」と地域活動への参加等による「出番」を創出。地域の絆や社会全体で子どもを見守り育てる包摂性を大切にし、つながり、支え合う子育て環境を充実。

#### 令和7年度（2025年度）の主な取組

- ・ 認可保育施設における第2子以降の保育料無償化を実施
- ・ 府市連携により、子ども・若者が社会に関心を持つきっかけ・出番の創出、子どもの体験の機会拡充等を図るため、大学生等のサポートを受けながら、子どもたちだけで仮設のまちを運営する京都版ミニ・ミュンヘンを梅小路公園で開催
- ・ 遊び場と図書館を軸に、あらゆる世代の居場所となるよう、元ラクト健康・文化館を活用した「山科駅前遊びと学びの拠点複合施設（仮称）整備・運営構想」を策定
- ・ 建築家の安藤忠雄氏から寄付を受けて、こどもたちが多様な本に囲まれながら、文化・芸術にも触れ、豊かな感性と知的好奇心をはぐくむ「明倫の寺子屋」として、「こども本の森京都」の整備方針を決定
- ・ こどもまんなか公園魅力アッププロジェクトとして、老朽化した遊具の更新、トイレリニューアル・便器の洋式化、危険木の植替えを実施。東野公園においてインクルーシブ遊具をはじめとした公園遊具の設置や大径化した樹木等の伐採・剪定を実施するほか、柴山西公園の再整備に着手

### ⑫ 京都固有の町並みを次世代に「つなぐ」プロジェクト

- 京都の歴史、文化、町並みの象徴であり、四季折々の自然や地域と共生する京都ならではの生活の文化を紡いできた京町家について、そこに息づく「暮らし」や「営み」と共に、京町家を今に活かし、次の世代につないでいくため、公民連携・市民協働による活用の推進など社会全体で保全・継承するための仕組みの強化や、相続税・固定資産税等の所有者の経済的負担の軽減に向けて国と連携し取り組むなど、より実効性の高い施策を構築し、展開。

- 京都の景観の現況について多角的に検証を行い、京都にふさわしい通り景観の創出など、地域の特性に応じたきめ細やかな景観形成のあり方を検討し、景観政策をさらに進化（再掲）。

- 民泊の顕著な増加に伴う地域コミュニティへの影響、また民泊に起因した騒音等による静謐な生活環境の悪化等の課題に対応するため、廃止命令も視野に違法民泊に厳格に対処するとともに、民泊の適正化に向けた監視・指導体制を強化。さらには、国とも連携し、都市計画手法も含めた立地規制など民泊規制のあり方を検討し、条例改正等により抜本的に規制を見直し・強化（再掲）。
- 京都特有の水辺環境や自然、文化など鴨川や高瀬川が持つポテンシャルを活かし、府市協調・公民連携で鴨川・高瀬川エリアの魅力を向上。

#### 令和7年度（2025年度）の主な取組

- ・ 「京都市京町家保全・継承審議会」からの答申を踏まえ、景観重要建造物等への積極的な指定や京町家条例の制度改正、維持管理に要する所有者の負担軽減、社会的保有や活用・流通の促進など、京町家の保全・継承施策を強化した「京都市京町家保全・継承推進計画（第2次）」案を取りまとめ
- ・ 歴史的建造物（京町家等）に係る相続税、固定資産税及び都市計画税の課税標準の特例措置の創設・拡充や相続税の納税猶予制度の創設について、文化庁及び国土交通省に要望
- ・ 社会経済情勢、市民ニーズの変化に対応した景観政策とし、地域特性を活かした景観づくりに取り組むため、景観調査を実施するとともに、京都市景観政策検討委員会を設置し、政策の方向性等について検討・審議【再掲】
- ・ 住宅宿泊事業法に基づく定期報告義務を怠る事業者に対し、違反对応を強化するとともに、民泊の抜本的な規制の見直し・強化に向け、旅館業法及び住宅宿泊事業法について、地域の実情を踏まえた柔軟な運用が可能となるよう、法改正も含めた制度見直しを厚生労働省や観光庁へ要望するとともに、令和8年度中の条例改正提案に向けた検討を開始【再掲】
- ・ 鴨川の魅力向上に向けて、先斗町公園における憩いの親水空間の形成に向けた公園の利用状況や通行量の調査を実施、検証するとともに、せせらぎの道（三条～四条間の川端通東側に位置する散策道）における照明設備の設置に向けた基本設計を実施

#### ⑬ 「山紫水明の都」ならではの生物多様性・未来継承プロジェクト

- 京都のまちの歴史と文化の根底を成してきた豊かな自然との共生を志向し続け、これを未来へ引き継ぐため、あらゆる分野との交わりを意識しながら、取組を展開。
- 市民・事業者・観光客などの参加により、京都の自然の素晴らしさを身近に感じ、発見し、愛着を深めるプラットフォーム「生きものむすぶ・みんなのミュージアム」を創設。文化や暮らしと自然や生きものとのつながりに関する情報の収集・公開、共通の興味・課題等を持つ方の交流促進・コミュニティ化、活動に伴う貢献度に見える化などの継続的な行動変容の支援により、生物多様性を結節点として京都への愛着とまちの魅力を向上。

- 生態系や水、大地・森林など、みんなの財産である自然環境の保全と同時に経済価値を創出し、「豊かな脱炭素社会」を実現するため、民間企業との更なる連携により、省エネ・再エネ技術などの新たな技術も積極的に活用しながら、サーキュラーエコノミーを体現したビジネスモデルの創出やグリーン農業の支援など、循環型の社会・経済活動への移行を促進。
- 生命を尊び、自然との不可分性・一体性を改めて体感し体得できる環境教育・学習の機会の充実や、多様な主体に環境保全に関わることの楽しさやメリットを感じ、前向きに取り組んでいただくための「インセンティブを意識した取組」を実施。

令和7年度（2025年度）の主な取組

- ・ 「生きものむすぶ・みんなのミュージアム」の機能や仕組みを検討するため、オンラインでの意見募集や対面形式のワークショップを開催するとともに、京都の魅力を育んできた「水」に関連する「鴨川」及び「食」をテーマにした、文化や暮らしと自然や生きものとのつながりを体感するモデル事業を実施
- ・ 関西電力株式会社と連携・協力して持続可能な社会の実現に向けた取組を推進していくため、包括連携協定を締結
- ・ サーキュラーエコノミーに関する知識の習得や循環型ビジネスモデルの創出につなげる「サーキュラービジネスデザインスクール京都」（勉強会及び交流会）等を実施
- ・ 環境問題を学び・考える機会の創出に向け、学生を対象に、学校教育の一環として実施する探究学習プログラム（教材）を開発し、市立開建高校において、試行的に実施

関連指標（リーディング・プロジェクト）

|                       | 指標                                                      | 計画記載の<br>現況値                     | 直近の値                             | 目標値                              |
|-----------------------|---------------------------------------------------------|----------------------------------|----------------------------------|----------------------------------|
| 1<br>ひ<br>ら<br>く      | オープンパブリックスペースの活用団体数                                     | 19 団体 (R6)                       | 262 団体 (R7)                      | 300 団体 (R9)                      |
|                       | 専門的・技術的分野の外国人材の人数                                       | 7,967 人 (R5)                     | 13,166 人 (R7)                    | 16,000 人 (R9)                    |
|                       | 観光客のリピーター率（日本人（10回以上）・外国人（2回以上））                        | 日本人：56.5% (R5)<br>外国人：26.7% (R5) | 日本人：58.0% (R7)<br>外国人：22.0% (R7) | 日本人：59.0% (R9)<br>外国人：30.0% (R9) |
|                       | 非自動車分担率                                                 | 79.4% (R5)                       | 79.0% (R7)                       | R5 数値以上 (R9)                     |
|                       | 「京都のまちには国内外からの多様な人々と交流する機会があり、新たな気づきや学びに出会えている」と思う市民の割合 | 43.3% (R7)                       | 33.2% (R8)                       | R7 数値以上 (R9)                     |
| 2<br>き<br>わ<br>め<br>る | 創造的活動等が認定された企業数                                         | 521 件 (R5)                       | 593 件 (R7)                       | 644 件 (R9)                       |
|                       | スタートアップ設立件数                                             | 222 件 (R2.8～R7.3)                | 54 件 (R7.4～R8.3)                 | 500 件 (R7.4～R12.3)               |
|                       | 国内外の企業立地件数                                              | 50 件/年 (R5)                      | 58 件/年 (R7)                      | 60 件/年 (R9)                      |
|                       | 「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる」と思う小・中学生の割合                | 77.5% (R5)                       | 78.8% (R7)                       | R5 数値以上 (R9)                     |
| 3<br>つ<br>な<br>ぐ      | 地域住民・団体がつながり、新たに生まれた・充実した地域活動数                          | R7 から計測                          | 21 件 (R7)                        | 100 件 (R9)                       |
|                       | 京町家数の推移（実残存軒数/予測残存軒数）                                   | 1 (R6)                           | 1 (R6)                           | 1 以上 (R9)                        |
|                       | 「私の暮らしている地域の身近な自然環境が守られ、受け継がれていると感じる」と思う市民の割合           | 43.6% (R7)                       | 44.2% (R8)                       | R7 数値以上 (R9)                     |
|                       | 「近所で日頃からあいさつが行われるなど、人と人との関わりやつながりを感じる」と思う市民の割合          | 42.7% (R7)                       | 41.6% (R8)                       | R7 数値以上 (R9)                     |

関連指標（政策の柱（モニタリング指標））

| 政策の柱                                                                 | 指標                                                                 | 計画記載の<br>現況値  | 直近の値          |
|----------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------|---------------|---------------|
| 1 京都のまちが<br>紡ぐ文化の力を活<br>かし「新たな魅<br>力・価値を創造し<br>続けるまち」                | 「文化芸術活動が、京都のまちの活<br>気につながっている」と思う市民の<br>割合                         | 56.3%<br>(R7) | 50.2%<br>(R8) |
| 2 居場所と出番<br>により、つなが<br>り・支え合う「包<br>摂性が高く誰もが<br>生き生きと活躍で<br>きるまち」     | 「近所で日頃からあいさつが行われ<br>るなど、人と人との関わりやつなが<br>りを感じる」と思う市民の割合             | 42.7%<br>(R7) | 41.6%<br>(R8) |
|                                                                      | 「私の暮らしている地域では、多様<br>な人が自分らしく暮らせている」と<br>思う市民の割合                    | 36.7%<br>(R7) | 38.0%<br>(R8) |
| 3 京都の伝統・<br>知恵・イノベー<br>ションの力により<br>「都市の活力と成<br>長を支える産業が<br>育つまち」     | 企業経営実績について、前年と比較<br>して、改善したと思う中小企業の割<br>合                          | 28.7%<br>(R6) | 23.9%<br>(R7) |
|                                                                      | 「国内外から起業家や芸術家など<br>様々な人が京都のまちに集まり、創<br>造性の高い風土が生まれている」と<br>思う市民の割合 | 43.8%<br>(R7) | 38.3%<br>(R8) |
| 4 京都ならではの<br>学びと子育て環<br>境を通して「未来<br>を担う子ども・若<br>者を社会全体で共<br>にはぐくむまち」 | 「課題の解決に向けて、自分で考<br>え、自分から取り組んでいる」と思<br>う小・中学生の割合                   | 77.5%<br>(R5) | 78.8%<br>(R7) |
|                                                                      | 「私の暮らしている地域では、子ど<br>もたちがいきいきと暮らせている」<br>と思う市民の割合                   | 41.5%<br>(R7) | 41.7%<br>(R8) |
| 5 豊かな自然・<br>歴史的景観と地域<br>の魅力を活かした<br>「自然環境と調和<br>する持続可能なま<br>ち」       | 自然環境と調和した文化や暮らしが<br>広がっていると答えた市民の割合                                | 39.7%<br>(R5) | 37.4%<br>(R7) |
| 6 市民のいの<br>ち・暮らしを守る<br>「安心安全で災害<br>に強いレジリエン<br>トなまち」                 | 「私が困った時や苦しい時に身近に<br>助けてくれる人や安心して過ごせる<br>場所がある」と思う市民の割合             | 31.5%<br>(R7) | 31.8%<br>(R8) |
|                                                                      | 「私の暮らしている地域では、災害<br>が起こっても周りの人たちと協力し<br>合って対応できる」と思う市民の割<br>合      | 34.6%<br>(R7) | 34.9%<br>(R8) |

ウェルビーイング実感の関連指標（モニタリング指標）

| 指標                                    | 計画記載の<br>現況値  | 直近の値          |
|---------------------------------------|---------------|---------------|
| 「自由に住む場所を選べる場合、京都に住み続けたい」<br>と思う市民の割合 | 66.3%<br>(R7) | 66.0%<br>(R8) |